

リスクアセスメント / マネジメントシステム分科会

会場 札幌コンベンションセンター 大ホールC 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
交通 地下鉄／東西線東札幌駅から徒歩8分 (会場への交通案内参照)

10月23日 (木) のプログラム (9:00開場)

9:30

1 リスクアセスメントと学校の安全衛生対策

鹿児島工業高等専門学校
機械工学科 准教授 引地 力男

9:50

学校の事故を未然に防ぐためにリスクアセスメントを導入して安全衛生対策を実施した。その結果、危険な作業が特定され、ケガの件数も減少してきた。

事例報告① サービス業における認定取得への挑戦と期待

北海道厚産(株) 代表取締役社長 亀田 健司

10:10

業界初の認定により顧客からの信頼と従業員の安全確保に一步前進。やること、やったことをハッキリさせた。ゴールのない活動が今日も続いている。

2 日々の作業で取組んだリスク低減活動の実例

東日本旅客鉄道(株) 新津車両製作所
計画部総務課 課長 綿貫 茂

(10:30 ~ 10:40休憩) 10:40

安全総点検、安全衛生推進会議、ヒヤリハット報告等、リスクアセスメントの手法を導入し、リスクが少ない職場を作り、傷害事故等労働災害の減少を図る。

事例報告② 小集団による職場リスク低減活動

東芝松下ディスプレイテクノロジー(株) 深谷工場
製造部アレイ製造課 課長 棟安 孝司

11:00

全員参加による職場リスク低減活動推進のため、小集団活動のテーマとして取組んだ。活動の進め方や成果について対策事例を交え紹介する。

3 作業のリスク評価で安全確保と作業性の向上

川崎重工業(株) 明石工場
ガスタービンビジネスセンター生産総括部製造部第三工作課 班長 伏見 直樹

(11:20 ~ 11:30休憩) 11:30

ガスタービンエンジンの試運転作業における積み込み作業のリスクアセスメントを行い安全確保と作業性が向上した。

事例報告③ 災害ゼロへのスタートライン

横浜ゴム(株) 安全衛生推進室 係長 西 正幸

11:50

OSHMSを導入し、リスクアセスメントも100回を超えたが、やっとスタートラインに立てた感。実行面の難しさを克服してきたプロセスを報告。

4 当社における OSHMS に沿った取組み

西日本旅客鉄道(株)
安全推進部・主席 登日 清弘

(12:10 ~ 13:10昼休み) 13:10

当社での安全衛生水準向上のために導入している「労働安全衛生マネジメントシステム」に沿った取組みの深度化を図るための取組み内容を紹介する。

リスクアセスメント/マネジメントシステム分科会

(12:10～13:10昼休み) 13:10

5 リスクアセスメントの導入と安全教育の充実

更なる安全衛生のレベルアップを図る為に、リスクアセスメントを導入し、安全教育の充実を図る事で安全衛生の成果を上げた。その活動内容を紹介する。

花王(株) 栃木工場
地区サービスセンター安全環境グループ グループリーダー 金田 萬造
13:30

6 労働安全リスクアセスメントの取組み

労働安全リスクアセスメント活動の補助として作業の危険有害要因をデータベース化し検索出来るシステムで他に関連法令、災害事例に関連づけている。

(株) 北弘電社
安全環境品証室 室長 集脇 博行

(13:50～14:00休憩) 14:00

7 リスクゼロへ みんなで築こう笑顔の職場

職種別にリスクアセスメントを実施し、ハード面およびソフト面における職員の安全意識の向上に取組んだ。

東京急行電鉄(株) 鉄道事業本部運転車両部
世田谷線管区 運転士 室井 健治
14:20

8 全員参加:「自分達の安全は自分達で守る」

当事業所が従来から取組んできた先取り安全活動と、リスクアセスメントを融合させた「日常リスクアセスメント」について紹介する。

クノール食品(株) 川崎事業所
管理部 安全担当 平野 正剛
14:40

9 リスク管理による攻めの危険予知と労災防止に向けた取組み

リスクアセスメントにより危険予知と労災防止のPDCAサイクルの構築を図った。

西日本旅客鉄道(株) 米子支社 後藤総合車両所
計画科・事務係 山田 浩二
(15:00～15:10休憩) 15:10

シンポジウム 中小規模事業場におけるマネジメントシステム普及定着の取組み

講師 YKK(株) 黒部事業所 環境・安全衛生グループ安全衛生担当
セイコーエプソン(株) 総務部安全推進担当課長
(社) いわき労働基準協会 専務理事
司会 中央労働災害防止協会技術支援部マネジメントシステム推進センター所長

村井 和夫
高木 豊
野木 安
笠原 國昭

16:40 終了

10月24日(金)のプログラム(9:00開場)

9:30

特別報告 海外工場に対する OSHMS の展開

YKK(株) 黒部事業所 環境・安全衛生グループ 安全衛生担当
YKK(株) 台湾社 安全衛生副理
YKK(株) タイ社 安全衛生部長

村井 和夫
曹 坤棟
スティサック

10:00

「海外工場にも、OSHMSを」との全社方針のもと、トップランナーとしての本社と現地の役割を明確にし、両者の一体的な支援体制を確立した取組みを紹介する。

リスクアセスメント / マネジメントシステム分科会

10 : 00

講 演 安全衛生管理における OSHMS の成果と課題（仮題）

千葉科学大学 学長 平野 敏右

(11 : 10 ~ 11 : 20休憩) 11 : 20

10 安全衛生マネジメントシステムの導入過程

茨城大学阿見事業場
農学部准教授 衛生管理者 黒田 久雄

11 : 40

11 労働安全衛生マネジメントシステムの取得と安全衛生活動

マイクロンジャパン（株）
Business Risk Management 安全 Gr スーパーバイザー 佐藤 正

12 : 00 終了

OSHMS の普及が著しい。更なる事業場の安全衛生管理の向上と、労働災害の一層の減少を図るために、OSHMS の活用法などについて紹介する。

茨城大学阿見事業場（農学部）では、学生らも含んだ安全衛生マネジメントシステム導入過程のユニークな点について報告する。

OHSAS18001 取得する為に、安全衛生活動を 5 つの柱を決定し、項目別に具現化したマネージメントシステムの構築を図ったものである。

安全管理活動分科会（第 1 会場）

会 場 札幌コンベンションセンター 大ホールA 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
交 通 地下鉄／東西線東札幌駅から徒歩8分 （会場への交通案内参照）

10月23日（木）のプログラム（9 : 00開場）

9 : 30

1 軌陸車での作業における安全確保の取組み

北海道旅客鉄道（株）旭川保線所
施設技術係 松本 憲兒

9 : 50

トンネル検査は高所作業用軌陸車を使用するが、今回当職場で検査時における労働災害事故を防止するため取り組んできたことを紹介する。

2 フォークリフト作業における災害防止

(社) 日本自動車工業会 安全衛生部会 A グループ研究会委員
スズキ（株）人事部人事課安全衛生担当係長 牧野 章

(10 : 10 ~ 10 : 20休憩) 10 : 20

身近に使用される荷役運搬車両の災害に着目し、災害事例や安全基準・安全装備等の情報収集と分析をし、ハード・ソフト両面から原因と対策を検討した。

3 請負会社の安全衛生管理に関する考察と提言

(社) 日本自動車工業会 安全衛生部会 B グループ研究会委員
日産ディーゼル工業（株）人事部安全健康管理担当上席主事 佐藤昭一郎

10 : 40

自動車製造事業場内の請負業者との連携や災害状況・安全衛生管理体制を 2 年間にわたって調査・分析し、安全衛生管理向上について具体的な提言を行う。

安全管理活動分科会（第1会場）

10:40

4 安全管理体制と安全パトロール

北海道電力（株）奈井江発電所
発電課

西島 彰

火力発電所では、定例・定型作業の慣れ等による災害が多く見られる。そのため、安全管理体制、安全パトロールに工夫を行っている。

11:00

5 電柱中間部における安全な作業方法について

西日本システム建設（株）
土木事業部 担当部長

窪川 正文

電柱中間部で脚立や梯子を用いて作業を行う際に、不安全作業が散見される。今回足場面積の広い作業台や頂部が球形の電柱用梯子を用いた改善事例を紹介する。

（11:20～11:30休憩）11:30

6 職場環境改善によるリスク低減の取組み

新日本製鐵（株）棒線事業部室蘭製鐵所
製鋼工場精錬課 班長

熊谷 勝己

危険要因の発掘活動を中心に職場の改善を計画的に実行してきた。その取組みが安全な職場づくりとなり、今後災害の芽をつみとる活動を継続する。

11:50

7 「V S O P」安全活動ベテランから新人まで

（株）住金鋼鉄和歌山
製鋼工場 副長

神谷 敏雄

全員の安全感覚アップを目的とした、点数制全員参加型の安全活動を展開し、ベテランから新人まで気持ち良く働ける環境づくりを目指すものである。

12:10

8 全員参加の安全活動による安全文化の構築

関西電力（株）南港発電所
計画課

坂井 雅人

安全に関する改善意見と対応状況を掲示し、見せる化を行うことで誰もが意見提起できる仕組みを構築し、全員参加型の安全活動に取り組んでいる。

（12:30～13:30昼休み）13:30

9 触車事故防止について

東海旅客鉄道（株）東海鉄道事業本部岡崎保線区
施設係

丹羽 崇文

鉄道独特の労災に触車がある。これを防止するために必要な列車見張員の配置について、システム化を行い、確実に適正配置することで労災防止を図る。

13:50

10 職場安全「Dのあたりまえ」活動

（株）デンソー西尾製作所
ディーゼル噴射製造部製造企画室安全・シニアエキスパート

杉本 健二

06年度災害多発を受けゼロ災必達に向け部の安全憲法「5つのあたりまえ」を制定し、管理者が先頭に立ち全員一丸となつての活動を展開したので紹介する。

（14:10～14:20休憩）14:20

安全管理活動分科会（第 1 会場）

（14：10～14：20休憩）14：20

11 工事関係者全員で取組む労働災害撲滅活動

北海道電力（株）基幹系送変電建設所
変電課 主任

田中 修

14：40

ルール逸脱の黙認を絶対許さない現場風土の確立を目指した活動を、関係者全員が一丸となり実践しゼロ災害を継続している。その活動内容を紹介する。

12 全員参加で取組んだ安全活動

関東自動車工業（株）岩手工場
塗装成型部化成課 安全衛生推進委員

及川 智三

15：00

職場の安全推進委員として、現場の安全管理を見直し、低頻度作業のリスクレベル低減や全員の安全感性向上に全員で取組んだ活動事例を紹介する。

13 墜転落等危険箇所の把握と対策

東海旅客鉄道（株）三重支店紀伊長島工務区
施設技術主任

北出 良道

（15：20～15：30休憩）15：30

当区の保守範囲は山間部や沿岸線沿いが多く、墜転落が予測される箇所が多い。今回、全線の危険箇所を調査し、ソフト・ハードの両面から対策を講じた。

講演 緊迫した災害現場でのリーダーの決断 ー基本と感性が大切ー

東京消防庁小金井消防署長

高野甲子雄

16：30

1982 年ホテルニュージャパンで大火災が発生し 100 名が取り残された。NHK「プロジェクト X」で伝説の消防士と紹介された最前線の指揮官が、緊迫した災害現場での決断を語る。

特別報告 I T 活用新安全管理手法の具体化 システムと実証試験結果

（社）日本鉄鋼連盟 I T 活用安全管理システム普及促進委員会
プロジェクトマネジメントディレクター

中北 輝雄

16：50 終了

大規模装置産業等の労働災害の管理的対策としての活用を想定した I T 活用安全管理システムの概要、実証試験の結果及び今後の普及活動の予定について報告する。

10月24日（金）のプログラム（9：00開場）

9：30

特別報告① JIS・ISO 保護具規格の現状と課題

十文字学園女子大学 人間生活学部教授

田中 茂

9：50

労働安全衛生保護具は事業場で災害防止のために広く使われているが、その有効性を担保する基本が J I S 規格等である。その現状と課題について報告する。

特別報告② ILO の労働安全衛生における世界戦略

I L O 労働安全衛生専門家

安全文化の創造とシステムアプローチに関連する取組みを ILO187 号条約、国家安全衛生プログラム、マネジメントシステム、化学品安全、実際の職場改善活動を中心に紹介する。

（10：30～10：40休憩）10：40

安全管理活動分科会（第1会場）

（10：30～10：40休憩）10：40

14 大地震を教訓とした職場の安全管理活動

東日本旅客鉄道（株）新潟支社 新潟機械技術センター
技術科 施設技術係

日野 克彦

11：00

15 「ISO手法を用いたHFMS構築の取り組み」

関西電力（株）南大阪電力システムセンター 森田 泰生

（11：20～11：30休憩）11：30

講 演

組織行動の「まずい!!」学
— どうして失敗が繰り返されるのか —

警察大学校警察政策研究センター 主任教授 樋口 晴彦

12：30 終了

過去二度にわたる大地震を経験して得た教訓から、ソフト面・ハード面における安全管理活動に取組んだ具体的な内容について紹介する。

ISO手法を用いた新たな切り口で、電力設備の作業におけるヒューマンエラー事故・災害防止を図るシステムの構築と活動状況を紹介するものである。

企業不祥事を引き起こした社員個々の問題行動は、あくまでも「引き金」にすぎない。その問題行動を誘発し、あるいは看過した組織上の問題点について解説する。

安全管理活動分科会（第2会場）

会 場 札幌コンベンションセンター 大ホールB 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
交 通 地下鉄／東西線東札幌駅から徒歩8分 （会場への交通案内参照）

10月23日（木）のプログラム（9：00開場）

9：30

1 めざせ!! 365日完全無災害

日新工機（株）呉支店
銑鋼機械課 製鋼機械係

大河 正樹

9：50

災害統計分析から墜落転落災害防止を重点に玉掛方法の改善や安全帯を確実に着装する意識改革などの活動を展開し、「一年間無災害」の目標を達成した。

2 災害を教訓としたリスク低減活動の取り組み

日産自動車（株）栃木工場
第二製造部第一铸造課 工長

大塚 勝

（10：10～10：20休憩）10：20

铸造工場に於いて、過去の災害を教訓に、コミュニケーションを土台としたメリハリ付けた活動で取組んだ安全活動の紹介である。

3 工事火災“ゼロ”への取り組み

JFE電制（株）福山事業所
福山工事部 第一工事課

佐藤 宏樹

10：40

工事管理に携わる者として工事火災は絶対に発生させてはならない。火気使用工事の低減を図る事で火災リスクの解消を目指したものである。

安全管理活動分科会（第2会場）

10:40

4 全豊田に於ける外来工事の安全管理

豊田通商（株）安全推進部 部長補佐 平井 聡

11:00

トヨタグループ各社が発注する工事の無事故無災害を実現するため、発注者の立場から取組んできた仕組みの構築や活動に関して報告するものである。

5 請負職場との連絡体制の仕組みづくり

旭硝子（株）相模工場
環境安全保安室 主席 加藤 哲也

(11:20～11:30休憩) 11:30

請負職場との連携強化を図るために、文書を通じた連絡方法や連絡調整者が一日でわかる「見える化」などの連絡体制の仕組みづくりをした。

6 蒲須坂配電塔における感電事故防止の取組み

東日本旅客鉄道（株）大宮支社大宮新幹線電力技術センター
安全指導科長（前・宇都宮新幹線メンテナンスセンター長） 後藤 健一

11:50

蒲須坂配電塔の高圧設備の感電事故防止のため、当面仮設による防護を行ったが、内部設備が検査できない等の問題点のための、防護柵の設置を検討した。

7 機械職場での5Sモデルラインづくり

本田技研工業（株）浜松製作所
2輪工場 管理ブロック 伊藤 吉泰

12:10

鉄軸物の機械加工職場で、切削油の洩れ対策などの環境改善を職場全員参加で実現した。併せて、整理整頓など5S定着化も進めた実践報告である。

8 アルミ粉塵爆発防止

三菱アルミニウム（株）富士製作所
事務部安全環境課 課長 上野 善正

(12:30～13:30昼休み) 13:30

アルミ業界で粉塵爆発が続いた事を受け、日本アルミニウム協会は粉塵爆発防止WGを設けた。リスクアセスメントの為の基礎調査と啓蒙活動を開始した。

講演 ビジネス・メンタルタフネス ーオリンピック選手が学ぶ心の力の秘訣ー

(株) ヒューマックス 取締役プログラムディレクター 高橋 慶治

(14:30～14:40休憩) 14:40

日本代表の柔道、水泳、マラソン選手達のメンタルトレーニングを指導した最新の理論をベースにビジネスの分野で活かすメンタルタフネスのポイントをお話する。

9 No.3 T L 静電気火災の撲滅

(株) 神戸製鋼所真岡製造所
製造部精整室 澤村 司

15:00

引火点の低い洗浄液による火災が頻発するという問題につき、原因の究明と対策を粘り強く繰り返すことで解決できた事例である。

10 厳冬期に於ける安全対策の取組みについて

北海道旅客鉄道（株）釧路運輸車両所
車両技術係 森山 準

(15:20～15:30休憩) 15:30

常に危険が伴う作業に従事し、労災事故を防止するため、過去の事故事例から学び、全社員で共有できる職場環境の整備に向けての取り組みを紹介。

安全管理活動分科会（第2会場）

（15：20～15：30休憩）15：30

11 レーザー用遮光保護具の製品安全性について

山本光学（株）
技術開発部 次長

石場 義久

15：50

近年急速に普及してきたレーザー光線に対してのレーザー光用遮光保護具の製品安全性についての取組みと、独自の安全性試験の実施について報告する。

12 K Y活動から快適職場への挑戦

日立アプライアンス（株）清水事業所
製造部工務課 組長

望月 浩明

16：10

当たり前とされていた職場環境をK Y手法とアンケート調査を参考に身近な問題から改善し快適職場の構築に向けて取り組んできた内容について報告する。

13 標準作業書等における安全衛生保護具の取扱い

ミドリ安全（株）
理事 安全衛生相談室

安部 健

16：30 終了

事業場では標準作業書等に作業の手順、方法は具体的に書かれているが、保護具については不十分な記述しかない。この問題への改善等を提案したい。

ヒューマンファクター・RST分科会

会場 札幌コンベンションセンター 特別会議場 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
交通 地下鉄／東西線東札幌駅から徒歩8分 （会場への交通案内参照）

10月23日（木）のプログラム（9：00開場）

9：30

1 居眠りによる重大事故の防止

日本貨物鉄道（株）東海支社
静岡総合鉄道部 運転士

中山 大輔

9：50

当職場で発生させた居眠りによる退行事故を二度と発生させないため、データを集め解析、居眠りマップを作成し、居眠り運転防止に役立てる。

2 送電線の加圧連絡時における誤認防止の取組み

北海道電力（株）工務部
送電グループ

堀 幸成

10：10

送電線の加圧操作における作業部門と運転部門の連絡対応時に線路名称の言い間違いにより発生した誤加圧事故の要因分析と防止対策に取り組んだものである。

3 社内版安全のポータルサイトの開発

東日本旅客鉄道（株）J R東日本研究開発センター
安全研究所 主席

高田雄一郎

（10：30～10：40休憩）10：40

社員がヒューマンファクター等について理解を深めると共に、エラー防止のための情報・ノウハウを共有するために、安全のポータルサイトを開発した。

ヒューマンファクター・RST分科会

(10:30～10:40休憩) 10:40

4 社員の安全意識を高めた独自の活動

(株) ディスコ広島事業所
広島総務部安全防災チーム

部谷 秀明

11:00

当社では独自性の高い安全活動（ワ
ンポイント講座・KYT・安全健康
原則カード・安全バッジ装着など）
によって社員の安全意識向上に努め
ている。

5 技能伝承プロジェクト活動

住友金属工業（株）和歌山製鉄所
効率化推進室 参事補

久我口文雄

11:20

2007 年問題対応として円滑な技能
伝承のシステム化を図るためプロ
ジェクトを構築、技能・操業の見え
る化と個性に応じた施策を推進する
ものである。

6 警備員の応急手当普及（心肺蘇生とAED）

日本信託警備（株）
管理室 次長

水野 康博

(11:40～11:50休憩) 11:50

お客様の安全安心を守る警備業に於
いて人命救助も大きな役割の一つで
ある。当社では応急手当普及員が全
警備員に対し心肺蘇生とAED操作
講習を実施中。

7 クレーン作業における安全確保のための取組み

東海旅客鉄道（株）新幹線鉄道事業本部関西支社大阪第三車両所
車両係

遠藤 雅尚

12:10

工事による騒音や視界不良が生ずる
作業環境下でのクレーン・玉掛作業
について、リスクアセスメントの手
法を用いてリスクを低減し、安全の
確保を図る。

8 建設現場の安全風土づくりへの試み

清水・前田特定建設工事共同企業体 浅川トンネル工事事務所
所長

三原 泰司

(12:30～13:20昼休み) 13:20

建設現場特有の工事条件下での安全
風土づくりにおいて、コミュニケー
ションという側面から工夫改善を
行った実施例について報告する。

9 基本作業・基本動作の早期定着に向けて

NTT 西日本 ホームテクノ中国 事業部
テクニカル推進部門 IT インストラクター

打萩 和枝

13:40

新入社員の安全研修について、安衛
法の一部改正を踏まえて、様々なリ
スクを特定し、それらの対策を重点
とした育成計画を策定し安全研修を
実施している。

10 予兆管理活動の取組みについて

西日本旅客鉄道（株）岡山支社
安全推進室 主席

山崎 卓志

14:00

予兆管理活動は、日常の業務の中に
潜んでいて表面には現れていない
「何かおかしい、あるいは気がかり
な事象」に対策を立て事前に事故を
防ぐ活動である。

ヒューマンファクター・RST分科会

14:00

11 「ダイキン流」安全体感教室の取組み

ダイキン工業（株）堺製作所金岡工場 原口 雅典

(14:20～14:30休憩) 14:30

講演 人も経済も「感情」で動いている
ーなぜ女性はレイ・ウィトンを選んでしまうのかー

明治大学情報コミュニケーション学部教授 友野 典男

(15:30～15:40休憩) 15:40

12 高所作業教育実施による墜落災害の低減

三菱電機ビルテクノサービス（株）広島支店
安全衛生指導員

高橋 輝昭

16:00

13 車両入換作業におけるマニュアルの改善

東日本旅客鉄道（株）横浜支社
大船駅 輸送主任

小島 君雄

16:20

14 急速な世代交代に対応した安全活動

苦東石油備蓄（株）苦小牧事業所
業務課 業務直長

小田 一孝

16:40 終了

*引き続き、ロイトン札幌2F「クリスタル・ルームC」において「RSTトレーナー 10万人突破記念全国交流会」を行います。お申込みは 交流会のご案内をご覧ください。

10月24日（金）のプログラム（9:00開場）

9:30

1 「危険感受性の向上」によるHF事故防止

関西電力（株）敷津制御所
所長

奥野喜美雄

9:50

2 大阪支社安全体感教育の実施について

西日本旅客鉄道（株）大阪支社
安全推進室・主査

山本 勝也

10:10

社内作製にこだわり擬似体感をフル活用し、短時間で身体に怖さを覚えさせる「ダイキン流」安全体感教室の取組みの報告である。

人の判断や選択は必ずしも合理的ではなく、感情や直感が強く働き、またメディアや他者からの情報に左右される。これについて行動経済学の視点で考える。

工場構内での施工工事において近年墜落災害が相次ぎ発生しており“墜落災害を何としても防ぎたい”という目的のもとに教育実施し墜落災害減少を図った。

技術継承が難しくなっている工事用臨時列車の取扱いや入換作業を誰もが不安なく安全に作業が行えるように、分かりやすい作業環境を確立した。

急速に進む世代交代の過程で、これまで蓄積してきた技術や安全面のノウハウを次世代に伝承する安全活動を展開した。

変電所運転部門におけるHF事故防止対策で、危険要因が潜んだビデオを視聴し、間違いや危険性に気付く感受性を高めようとする取組みである。

「百の説法より一つの体感」といわれる、社員に安全を肌で直接訴える体感教育を危険体験施設で体験させ、安全に対する認識を自ら考えさせる教育を実施した。

ヒューマンファクター・RST分科会

10:10

3 委託会社を含めた統一安全教育と現場実践教育

N T T西日本一東中国
設備部 企画部門 担当課長

白松 誠二

安全活動の定着に向け個人契約を含む委託会社への統一的安全教育並びにパトロール等各種機会を通じた実践的教育により、事故の未然防止を図っている。

10:30

4 プラント「安全・安定運転」教育カリキュラムの策定

東ソー（株）南陽事業所
総務部勤労課・教育研修センター

宮原 浩和

東ソーにおいて、「安全・安定運転」を目指すべく、教育カリキュラムを策定し、「現場力」「技術力」を強化するための取組みについて紹介する。

(10:50～11:00休憩) 11:00

5 若手社員教育における技術継承と安全確保

北海道旅客鉄道（株）札幌信号通信所
技師補

田渕 宏治

熟練社員の大量定年と若手社員の急激な増加による、技術力と安全面の低下を防ぐ為の、若手社員への教育の現状と早期育成への取組みを紹介する。

11:20

体験発表① 支部活動の活性化をめざして

R S Tトレーナー会愛媛県支部長

星加 康雄

旧知の企業担当者の協力を得ながら参加者の間口を広め、各種資質向上研修会などを開催し、報告レポートをメール配信するなど連携を強め、活性化を図ってきた支部活動を紹介する。

11:40

体験発表② 「理解度テスト」で“やる気”を引き出そう！

坂野建設（株）総務部・業務部長

内海 政美

独自の職長教育用問題集を活用して実施してきた、ポイントを絞り込んだ双方向の職長教育、さらに小学校等で KYT を指導する RST トレーナーの活動を紹介する。

(12:00～13:00昼休み) 13:00

体験発表③ 維持管理業務における職長教育について

荏原エンジニアリングサービス（株）
維持管理本部 東京維持管理部長

直江 正文

職長教育は、開始後 5 年が経過し、現場の安全衛生レベルの向上に寄与している。リスクアセスメントを始め、運営・改善事例について報告する。

13:20

講演 組織風土と職場の特性

東洋英和女学院大学人間科学部教授
社会心理学者

岡本 浩一

企業が持つ組織風土が、職場にどういう特徴を与え影響を及ぼすのか、その社会心理学的メカニズムと、部門長が心がける組織論的行動、個人努力について解説する。

14:50 終了

機械・設備等の安全分科会

会場 札幌コンベンションセンター 小ホール 札幌市白石区東札幌 6 条 1 丁目 1-1
交通 地下鉄／東西線東札幌駅から徒歩8分 (会場への交通案内参照)

10月23日（木）のプログラム（9：00開場）

9：30

1 働く人のための設備安全支援技術開発

大同特殊鋼（株） 廣瀬 兼展
本社安全推進部 ハード改革室

フォークリフトやクレーン玉掛け作業で繰返し発生する災害防止対策として I T を活用した設備安全支援技術を独自に開発し実践活用した。

9：50

2 架線検電器の信頼性確認法の改善

西日本旅客鉄道（株）大阪支社 天王寺電力区
天王寺電力区・電気管理係 見本 和也

架線電圧検電器は作業員の命を預ける重要な器具である。電圧表示に不確実性が発生したため使用前点検方法の検討を行うとともに電気理論により解明した。

(10：10～10：20休憩) 10：20

3 墜落・転落災害ゼロをめざして

日本通運（株）周南支店日ポリ事業所 川野 達也
10：40

近年、墜落・転落災害が多く重大な災害である。そこで当事業所の作業にて災害を防止するため改善・検討をくり返し安全作業を追求してきた。

4 N T T 西日本一四国仕様伸縮梯子の紹介

N T T 西日本一四国 香川事業部
設備部 設備企画担当 主査 白井 正基
11：00

昇降用転落防止器具一体化伸縮梯子を、安全性・作業性の両面から検討し、インターロック式安全帯でも使用可能となるようメーカーの協力を得て改善した。

5 無停電作業による感電・墜落の傷害事故防止

東日本旅客鉄道（株）東京支社
東京電車線技術センター 電気技術係 大坂 亮

鳥の巣に起因した地絡事故などの輸送障害を防止し、除去作業での感電や墜落といった障害事故防止に効果を発揮する安全な防護管を開発した。

(11：20～11：30休憩) 11：30

講演 労働災害防止に必要な機械安全の基本的な考え方

技術コンサルタント 技術士 松本 俊次

改正「機械の包括的な安全基準に関する指針」や JIS 化された「ISO12100 機械類の安全性」の重要性について、わが国の労災事故事例から解説する。

(12：30～13：30昼休み) 13：30

機械・設備等の安全分科会

(12:30～13:30昼休み) 13:30

シンポジウム

機械設備の安全化と全員参加の生産保全（TPM）の一体的取り組みについて

講 師 (社)日本プラントメンテナンス協会メンテナンス技術本部
実証研究1グループ部長
トヨタ自動車(株)安全健康推進部付主幹
(独)労働安全衛生総合研究所 機械システム安全研究グループ
司 会 中央労働災害防止協会技術支援部次長

天川 一彦
宮川 光雄
毛利 正

(15:00～15:10休憩) 15:10

平成20年度安全・衛生・快適考案表彰金賞事例発表

15:30

6 ハザードリスクのデータベース化とその運用

九州工業大学
生命体工学研究科技術室技術長 安全管理者

初田 智明

機械リスト収集から危険要因の洗いだし、リスク評価、対策の記録に至る一連のプロセスをオンラインで実践できるDBシステムを導入したので紹介する。

15:50

7 非自走式仮台車の安全対策について

東日本旅客鉄道(株)仙台支社 郡山総合車両センター
郡山車両センター 企画科・車両技術主任

近内 英雄

車両検修時の車体移動は仮台車を使用している。この危険要因低減活動として、緊急停止装置を製作した。これによるリスク低減の成果を報告する。

16:10 終了

中小企業分科会

会 場 札幌コンベンションセンター 中ホール 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
交 通 地下鉄ノ東西線東札幌駅から徒歩8分 (会場への交通案内参照)

10月23日(木)のプログラム(9:00開場)

9:30

パネルディスカッション

中小企業向けリスクアセスメント入門実践編
ー現場からの本音トークー

講 師 IK安全サポート代表
井上安全概念研究室 室長
(株)アイメタルテクノロジー 管理本部管理部門総務人事部 安全環境グループリーダー
中央労働災害防止協会教育部中小企業安全衛生推進センター所長
司 会 中央労働災害防止協会教育部中小企業安全衛生推進センター事業課課長補佐

小出 勲夫
井上 悦雄
宮西 義明
小林 剛
林 かおり

(10:40～10:50休憩) 10:50

中小企業分科会

(10:40～10:50休憩) 10:50

1 塩那地区『安全文化』大作戦！

(社) 塩那労働基準協会 産業安全部長
東京計器(株) 那須工場 総務課長

江川 健造

地域の労働災害の増加に鑑み、社団法人塩那労働基準協会を中心とする地域の労働災害防止団体等 14 団体の『安全文化』への取組みについて紹介する。

11:10

2 小規模事業場の面接指導に関する意識調査

(独) 労働者健康福祉機構 大阪産業保健推進センター
産業保健相談員

久保田昌詞

50 人未満事業場に面接指導のアンケート調査を実施、零細事業場への周知と、地域産業保健センターと事業場の連携推進が必要であると考えられた。

11:30

3 妥協せず、成果が見える安全な職場造り

幌清(株) 工長 齊藤 弘幸

ステップアップ活動は職場一人ひとりの独創性を活かし、形式に囚われることなく、全員参加で一歩一歩着実に「見える」安全活動を展開するものである。

11:50

特別報告 今！労働安全衛生管理のスタートラインについて —3年間のたんばぼ計画支援事業が教えてくれたもの—

宮城県生コンクリート工業組合労働災害防止対策委員会副委員長
石巻地区コンクリート協同組合専務理事

今野 正弘

「たんばぼ^{プラン}計画」における安全衛生活動を積極的に推進したことにより、団体内の連続死亡災害ゼロ達成をした団体の安全衛生活動について報告する。

(12:10～13:10昼休み) 13:10

体験発表 酒造りとともに築く無災害記録

久須美酒造(株) 代表取締役社長 久須美記勉

「夏子の酒」のモデルが、幻の酒米復活のロマンと、この三年に三度の自然災害(水害と地震)の直撃を乗り越え樹立した無災害記録への思いを熱く語る。

13:40

4 地方中小規模事業場向けメンタルヘルス対策

(財) 淳風会健康管理センター
メンタルサポートセンター 室長

峰山 幸子

地方の中小規模事業場におけるメンタルヘルス対策の取組み方法について検討した。

14:00

5 中小企業における安全衛生活動の事例等

(株) 東洋建物興業
警備部警備本部長

辻本 英樹

「ヒューマンエラーを無くし、通勤型労働災害、災害事故を起こさない為の取り組み」指導・教育研究部会活動を報告する。

(14:20～14:30休憩) 14:30

中小企業分科会

(14:20～14:30休憩) 14:30

6 交流分析に基づく警備業のメンタルヘルス論

(株)山二工業
常務取締役 輪島 公人

14:50

メンタルヘルス不全が少ないとは言えない警備業界。現代心理学の「交流分析」理論によって良好な人間関係構築を図るとするストレス対策の発表である。

7 ホワイトボードを使った作業手順書について

菅原興業(株)
専務取締役 菅原 有司

(15:10～15:20休憩) 15:20

主に線路のメンテナンスを行っているが、今回技術継承と事故防止を目的として、ホワイトボードを使った作業手順書についての取組みを述べる。

講演 新しい空飛ぶ夢のかたち ー世界最大の飛行船 テイクオフー

(株)日本飛行船 代表取締役社長 渡邊 裕之

16:20 終了

世界最大の飛行船による国内初の遊覧飛行を始めたパイオニアとして、今までの道のり今後の展望について、北の大地への挑戦を含め元氣の出る講演をする。

化学物質管理分科会

会場 札幌コンベンションセンター 中ホール 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1
交通 地下鉄／東西線東札幌駅から徒歩8分 (会場への交通案内参照)

10月24日(金)のプログラム(9:00開場)

9:30

1 化学防護服による化学薬品の健康被害対策

化学薬品による作業従事者の健康被害について、化学防護服を用いた対策例を発表する。

アゼアス(株)第一事業部 熊谷 慎介

9:50

2 携帯型ガス検知器の定期作動テストの必要性

携帯型ガス検知器の故障を標準ガスを用いて調査した所、4.4%/年と高かった。そこで最低月1回のガス作動テストを全事業所で開始した。

エクソンモービル(有)
医務産業衛生部 アジア太平洋地区 産業衛生アドバイザー 橋本 晴男

10:10

3 ソニー中国工場に向けた安全衛生管理の展開

ソニーグループにおける中国国内の某量産工場において、新規プロジェクト展開時における化学物質管理を中心とした安全衛生管理の実践について報告する。

ソニーファシリティマネジメント(株)セーフティエンジニアリングセンター
安全防災ソリューション部 統括部長 内藤 博光

(10:30～10:40休憩) 10:40

化学物質管理分科会

(10:30～10:40休憩) 10:40

特別報告①

爆発・火災防止のための リスクアセスメント手法

中央労働災害防止協会
技術支援部化学物質管理支援センター管理支援課 課長補佐

棗田 衆一郎

GHSの分類結果を利用したチェックリスト方式の爆発・火災防止のためのリスクアセスメント手法を事例を使用して紹介する。

11:10

特別報告②

健康障害防止のための リスクアセスメント手法

中央労働災害防止協会
技術支援部化学物質管理支援センター管理支援課 課長

山田 周

中災防で開発した健康障害防止のための化学物質リスクアセスメント手法について、有害性評価、ばく露評価及びリスク評価の方法を解説する。

(11:40～12:40昼休み) 12:40

4 上塗りブース火災リスクの低減

日産自動車(株) 追浜工場
製造部塗装課

大瀧 力雄

出火による事故も災害同様にリスク低減を図る必要がある。その為、当社塗装工場で取り組んだ静電気及び溶剤ガスへのリスク低減対策を紹介する。

13:00

講演

化学物質管理の国際動向 ー諸外国の動きとわが国のあり方ー

関東学院大学法学部教授 法学博士 織 朱實

海外の製品含有化学物質に関する法整備が進む中、その国際的な潮流を踏まえ、諸外国や日本の化学物質管理の規制、自主的取組みの動向などを解説する。

14:00 終了

ゼロ災運動分科会

会場 北海道厚生年金会館 瑞雪の間 札幌市中央区北1条西12丁目
交通 地下鉄／東西線西11丁目駅から徒歩5分(会場への交通案内参照)

10月23日(木)のプログラム(9:00開場)

9:30

1 映像教材活用による効果的K Y訓練

(社)小倉労働基準協会
講師

松本 輝夫

K Yの実技指導でビデオ等の映像教材を手法説明に活用すると共に実技後、K Yシートと同じ場面の実技を映像で見せることにより効果を上げている。

9:50

2 ゼロ災運動推進こそがC S Rと安全先取り!

植村建設(株)
安全衛生対策室 室長

松平 明仁

ゼロ災運動推進宣言事業場 060101の登録と、うえむら安全衛生協力会節目を迎え、職場の危険や問題点を全員参加で解決し、安全と健康を皆で先取りする。

10:10

ゼロ災運動分科会

10:10

3 J F E 福山地区の危険予知安全活動

J F E スチール（株）西日本製鉄所（福山地区）
労働人事部 福山安全衛生室

倉岡 健悟

経験不足により危険に気付かず災害が発生する中で、安全活動の原点である危険予知能力を向上させる取組みについて紹介する。

10:30

4 鉄道作業におけるヒューマンエラー防止

東日本旅客鉄道（株）千葉信号通信技術センター
電気技術係

池田 光義

ヒューマンエラーを防止するには指差し呼称等の基本動作を徹底させると共に、決められたルールを正しく認識させ全員に守る・守らせることが重要である。

(10:50～11:00休憩) 11:00

運動報告

ゼロ災運動の現状と今後の運動展開

ゼロ災運動を推進するための今後の中長期的課題と職場内短時間ミーティングによる安全先取りの職場風土づくりキャンペーンを紹介する。

中央労働災害防止協会 ゼロ災推進部長 田畑 和実

11:30

特別報告①

低層住宅建設におけるゼロ災運動の推進 ーヒューマンエラー事故防止ー

セキスイハイム近畿（株）
技術統括部安全環境部 課長 北脇 政行

「ライン化の構築」と「ヒューマンウェアへのこだわり」の管理と自主一体の活動を推進し、安全風土を構築して会社を耕してきた取組みを報告する。

(12:00～13:30昼休み) 13:30

5 危険予知活動と地震波予知・解析システム

北海道石油共同備蓄（株）北海道事業所
工務課 主任技師補

林 広道

当基地では大量の原油を備蓄管理している。危険予知活動による日常の安全活動と併せて地震災害を起因として発生する事故災害の未然防止対策を紹介する。

13:50

6 安全最優先の会社づくり フェーズⅡ

キヤノン・コンポーネンツ（株）
総務部安全環境課 課長代理

倉上 智行

労災ゼロを目指すにはOSHMSとリスクアセスメントでは不十分である。しかし人に委ねるKYTは浸透するには数年かかるものである。

14:10

7 職場風土をたがやすゼロ災運動

（株）アステム 安全衛生室 室長 鈴木 昭

ゼロ災運動に取り組んだことにより、赤チン災害を大幅に減らすことができた。更に従業員の改善意欲が高まり業績を大きく伸ばすことができた。

(14:30～14:40休憩) 14:40

ゼロ災運動分科会

(14:30～14:40休憩) 14:40

特別報告② 大学病院におけるKYT実施の効果

上武大学 看護学部准教授
(元群馬大学医学部付属病院 看護部看護師長)

千明 政好

15:10

特別報告③ 職場を耕すゼロ災ミーティング

中央労働災害防止協会 ゼロ災推進部

病院では自分と同様患者の安全保持も課題である。KYT 基礎 4 ラウンド法及び指差し呼称による確認行為の訓練を看護師・看護学生・医学生等に実施した効果を報告する。

職場のコミュニケーションの機会を取り戻して、安全先取りの職場風土づくりを目指す活動のあり方を実演を交えて紹介する。

(15:30～15:35休憩) 15:35

表彰 ゼロ災運動 表彰式

(15:55～16:00休憩) 16:00

講演 お茶一杯から始まった「はとバス」の経営改革 —顧客満足から顧客感動の時代へ—

(株) はとバス 元社長 宮端 清次

東京都交通局長、東京地下鉄建設専務取締役の経験や、特に経営危機に瀕していたはとバスを社長として再建した経験から得た教訓を踏まえ、お話しする。

17:00 終了

*引き続き、ウェルシティ札幌(北海道厚生年金会館)3F「蓬莱の間」において「ゼロ災運動全国交流会」を行います。お申込みは 交流会のご案内をご覧ください。

交通安全分科会

会場 北海道厚生年金会館 瑞雪の間 札幌市中央区北1条西12丁目
交通 地下鉄/東西線西11丁目駅から徒歩5分(会場への交通案内参照)

10月24日(金)のプログラム(9:00開場)

9:30

1 危険予知の体得で交通事故防止へ

N T T 西日本—中九州
企画部安全推進室

東田ルミ子

通勤時も含めた交通安全への意識高揚を図るため、社員から危険箇所の情報を収集し作成した危険予知webにより交通事故撲滅に向けた事例を紹介する。

9:50

2 自問確認自答の実施による車両事故撲滅活動

関西電力(株)大阪南支店
電力設備室長

島戸 俊明

車両事故撲滅には運転時の的確な自問確認自答実施が有効と考え、一大キャンペーンを実施し定着化を図ったところ、車両事故件数は対前年度比半減した。

10:10

交通安全分科会

10:10

3 安全輸送の土台となる健康管理への取り組み

西鉄人事サービス（株）
健康管理センター 保健師

河野富美代

交通運輸業における社会的使命は安全輸送の確保であり、この土台が乗務員の健康である。そこで当社でのバス乗務員の健康管理支援の実情を紹介する。

10:30

特別報告

「いざ、出動！」 —安全で安心な救援活動—

（社）日本自動車連盟
北海道本部事業課 課長

赤川 寛

故障車などの救援で、思いもしないビックリ体験や出動での失敗例。また、JAF で新たに取組むロードサービス技能検定制度における技能向上と安全活動を報告する。

（10:50～11:00休憩）11:00

講演

交通事故ワースト1 返上への道

北海道警察札幌方面豊平警察署長 松島 正興

12:00 終了

労働衛生管理活動分科会

会場 札幌市教育文化会館 小ホール 札幌市中央区北1条西13丁目
交通 地下鉄／東西線西11丁目駅から徒歩5分（会場への交通案内参照）

10月23日（木）のプログラム（9:30開場）

10:00

1 体力アップで労災防止!! ～日本ゼオン（株）水島工場における取り組み～

（財）淳風会健康管理センター
総合健診部運動指導課 課長

稲岡 美穂

労災防止の一環として50歳以上の従業員に独自の項目で体力テストと体力アップのための運動指導を実施。この活動の内容と効果について報告する。

10:20

2 生活習慣病に対しての取り組み

古河スカイ（株）製板事業部日光工場
管理グループ 看護師

小室 好美

生活習慣病の改善・予防に向け、従業員の自発的な行動を促す一助として、様々な視点から、機会の提供を図った活動実績について報告する。

10:40

3 保護マスクを正しく装着するために

日本貨物鉄道（株）北海道支社
苗穂車両所 助役

平間 敏彦

保護具は正しく着用しないとその性能を発揮しない。今回は保護マスクについて、密着度テストを行い、その結果を基に指導を行い漏れ率が改善された。

（11:00～11:10休憩）11:10

労働衛生管理活動分科会

(11:00～11:10休憩) 11:10

4 ろ過式呼吸用保護具の密着性について

興研 (株)
安全衛生ディビジョン 技術開発セクションリーダー

篠宮 真樹

11:30

弊社では昨年来測定器を用いたマスクの密着性確認サービスを実施している。本報では本サービスの概要と効果について実際の測定結果等を基に報告する。

5 粉塵工場の汚名返上活動

(株) 日本製鋼所室蘭製作所
製鋼部製鋼課取鍋班 班長補佐

竹内 健二

11:50

私の所属する職場は、3 K を代表するような所であり、至る所に粉塵の発生する要因がある。粉塵の処理を効率良く行い、職場環境の向上を図る。

6 重量物取扱作業の改善について

東海旅客鉄道 (株) 東海鉄道事業本部名古屋工場
台車職場 車両係

清水 健太

12:10

当職場には人力による重量物取扱作業が存在するので、作業者の身体への影響が懸念される作業を洗い出し、身体にかかる負担低減を目的に改善を図った。

7 成人病健診での健康情報の提供

本田技研工業 (株) 埼玉製作所
健康管理センター 看護師

村田くみ子

(12:30～13:30昼休み) 13:30

健康診断結果の理解度を高め、従業員自らの健康を考えるきっかけ作りを狙いとして成人病健診時に看護師が行なっている健康支援活動を紹介する。

8 作業負担軽減への新たな取組み (上肢痛・腰痛)

(株) デンソー西尾製作所
安全衛生環境室

森本 治幸

13:50

数年前から未熟練者が急増し、従来よりもきめ細かな作業負担軽減への対策が求められるようになったことから新たに取組んできた活動を紹介する。

9 J F E 福山地区における熱中症との戦い

J F E スチール (株) 西日本製鉄所 (福山地区)
労働人事部 福山安全衛生室

末藤 典昭

14:10

熱中症対策として、作業者の自覚に頼らない管理を導入し、作業環境と作業時間に応じた休憩時間と水分摂取量を定め実施した活動について紹介する。

10 人にやさしい作業への挑戦

トヨタ自動車 (株)
安全健康推進部

神 智彦

(14:30～14:40休憩) 14:40

生産工程における作業姿勢、重量や工具等によるリスク低減に向け、エルゴノミクスを視点とした活動のレベルアップを進めたので、その内容を報告する。

労働衛生管理活動分科会

(14:30～14:40休憩) 14:40

11 エルゴ評価マトリックスを使った職場環境づくり

日産自動車(株)九州工場
第二製造部第二車体課

山崎 新一

15:00

将来、高齢化や女子化に向け、災害発生の要因である精神的・肉体的苦痛を排除し楽に安心して作業ができる職場環境作りを目指した活動の事例である。

特別報告

愛媛県下における衛生管理者活動状況について

愛媛衛生管理者交流会アドバイザー 臼井 繁幸

(15:30～15:40休憩) 15:40

衛生管理者の半数以上は、職務遂行に困難さを感じており、処遇、権限、支援、活動時間、自己研鑽等に配慮した「職務が果たせる環境づくり」が必要である。

シンポジウム

安全に働くための健康管理

講師 産業医科大学産業生態科学研究所 所長

BSH 安全衛生のバトン研究会代表

新日本製鐵(株) 人事・労政部長

助言者 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課担当官

司会 中央労働災害防止協会技術支援部長

東 敏昭

菊池 昭

安福 慎一

中村 富也

17:00 終了

10月24日(金)のプログラム(9:30開場)

10:00

1 広島大学の労働衛生管理について

広島大学 東広島事業場
環境安全センター 助教

上村 信行

10:20

広島大学の安全衛生管理の実態把握と課題整理を行い、大学における安全衛生管理のあり方について考察することを目的とする。

2 腰痛対策への取り組み

JFEスチール(株)西日本製鉄所(倉敷地区)
労働人事部倉敷安全衛生室

難波 真美

10:40

昨年発表した労働災害を防ぐ為の安全体力機能テストにおいて腰痛のフォローとして実施している運動指導とその効果、又作業姿勢改善例の発表である。

3 健康づくり活動と共に進める転倒災害予防

松下電器産業(株)半導体社プロセス開発センター
健康管理室 保健師

木下真由美

(11:00～11:10休憩) 11:10

下肢筋力UPによる転倒災害予防を目指した「のびもり体操」を考案。社内に定着している健康づくり活動の仕組みや組織を活用し、導入した事例を紹介する。

労働衛生管理活動分科会

(11:00～11:10休憩) 11:10

4 中国勤務者への健康支援活動

マツダ（株）
安全健康推進部 健康推進センター

竹下 立子

11:30

海外勤務者への健康支援を実施している。近年重点的に取組んでいる中国プロジェクトへの支援を一例に支援の実際と今後の課題について紹介する。

5 ヘルシーカフェ2007

松下電器産業（株）
ツイン21OBPパナソニックタワー健康管理室

塚本 香織

11:50

実体験を通して健康について考えることを目的とし体験型健康イベントを開催した。イベント内容とアンケート結果、今後の課題について報告する。

6 JFE西日本倉敷地区の安全と健康への対応

JFEスチール（株）西日本製鉄所（倉敷地区）
労働人事部 倉敷安全衛生室 主任部員

百武 潤二

12:10

一般には、災害による休業が目目されるが、疾病による休業も非常に多い。当所では、安全と健康の融合を図り活動してきた。その概要と成果を報告する。

7 AED設置に伴う救命講習の自社取組み

本田技研工業（株）浜松製作所
安全衛生ブロック 技術主任

飯倉 克彦

(12:30～13:30昼休み) 13:30

当製作所内全域にAED（自動体外式除細動器）を設置し、救急法の社員教育を独自に進めながら継続システムとした事例を紹介する。

8 過重労働者向け手作り健康管理システム構築

松下電器産業（株）松下ホームアプライアンス社
IHクッキングヒータービジネスユニット人事チーム 安全衛生担当主事

高橋 雄三

13:50

自ら疲労蓄積度診断を行い医師との問診の必要性を判断できる「簡単アンケート」を独自開発。また、アンケートデータを活用し、疲労の事前予測にも活用。

講演 新型インフルエンザ パンデミック

北海道小樽保健所長 外岡 立人

14:50 終了

新型インフルエンザの爆発的な流行は、予断を許さない状況になっている。人命や社会経済活動に多くの被害をもたらすその時、企業はどう対応すればいいのか解説する。

*引き続き、ロイトン札幌2F「ハynes・ホール」において「全国衛生管理者情報交流会」を行います。お申込みは 交流会のご案内をご覧ください。

健康づくり分科会

会 場 札幌市教育文化会館 大ホール 札幌市中央区北 1 条西 13 丁目
交 通 地下鉄／東西線西11丁目駅から徒歩5分(会場への交通案内参照)

10月23日（木）のプログラム（9：30開場）

10：00	
1 製造現場での減量プログラムの試みと成果	生活習慣改善を目指した3ヶ月間のダイエットプログラム支援を実施。体重のみならず、生活習慣改善にも効果が認められたため、その効果を報告する。
(株) 神戸製鋼所真岡製造所 安全防災室 看護師 佐々木恵子	
10：20	
2 健康づくり活動を活性化する健康推進賞制度	当社では健康の保持・増進活動を推進するため、健康推進賞の制度を導入している。健康推進賞の選考基準、受賞した事業所の活動の内容を紹介する。
東京ガス(株) 人事部安全健康・福利室 保健師 横井奈津代	
10：40	
3 メタボ対象者への効果的な保健指導について	平成20年度より特定健診・特定保健指導の実施が開始されるが、それに先立ち、内臓脂肪症候群における効果的な指導方法について検討したので報告する。
古河電工健康保険組合 主任 伊藤 美季	
(11：00～11：10休憩) 11：10	
4 メタボリックシンドロームに対する支援活動	生活習慣関連有所見の減少を目的に特定保健指導を見据えたメタボリックシンドローム改善支援活動を開始。その実施結果を報告する。
トヨタ自動車(株) 安全健康推進部 小池 直子	
11：30	
5 「減量チャレンジ」実践による生活習慣改善	生活習慣の改善を個人の意思で成し遂げるのは困難だが、2ヶ月に1度の保健師による面接と仲間との共働を演出することで減量に成功した事例である。
(株) 北川鉄工所 総務部安全衛生推進室 主任 菅原 則昭	
11：50	
6 「健康価値創造部会」の取組みについて	企業の健康管理・健康づくり担当者が、「企業ニーズにあった健康づくり活動」について研究した成果を第二報として報告する。
近畿地区T H P 推進交流会 健康価値創造部会 川北 亨介	
12：10	
7 特定保健指導の品質保証への取組み	全衛連で策定した特定保健指導の質の確保のための評価指標・手法に関する指針を紹介し、特定保健指導実施機関の同指針運用状況について報告する。
(財) 淳風会健康管理センター 総合健診部保健指導課 課長 遠藤 恵子	
(12：30～13：20昼休み) 13：20	

健康づくり分科会

(12:30～13:20昼休み) 13:20

8 当事業所における禁煙活動からの教訓

ホンダエンジニアリング(株)
健康管理センター

古口 祥子
13:40

禁煙活動を効果的に行う為には、まず、受入れ易い環境を提供することである。それから、専門スタッフによるフォローを加えることが望ましい。

9 女性社員の健康支援に向けての検討

北海道旅客鉄道(株)札幌鉄道病院
保健管理部 保健師

安達 恭子
14:00

近年、女性労働者が増加する中で、当社では男性中心の健康づくり支援であった。女性特有の健康課題に視点をあてた支援をするため生活調査を実施した。

10 健診機関のネットワークを使った減量教室

(財)京都予防医学センター
健康づくりセンター 保健師

阿部 圭子
(14:20～14:30休憩) 14:30

全国に事業所をもつ企業において、健診機関のネットワークを使った減量教室を開催。その後各事業所スタッフがフォローし、一定の減量効果がみられた。

11 ウォーキングd e ダイエット

三菱マテリアル(株)直島製錬所
総務課

河元 幸
14:50

会社・健康保険組合が一体となり、毎月一回ウォーキング教室を開催している。毎月テーマを決めて教育を行いながら、ダイエットへとつなげている。

12 メタボリックシンドローム対策と効果

(株)グッドライフデザイン
営業統轄部

佐藤 文明
15:10

腹部CT撮影を導入し、内臓脂肪に着目することにより対象者の行動変容を促す。さらには、的確な保健指導による改善効果が期待できる。

13 「特定保健指導」の試みとその評価

住友ベークライト(株)
人事勤労部 保健師 労働衛生コンサルタント

杉山 淑子
(15:30～15:40休憩) 15:40

演題をテーマに、問題解決志向型の保健指導と体験重視型の健康作り事業を実施。併せてライフスタイルの改善状況と健診結果との関連について観察した。

シンポジウム

今後におけるT H Pの展望

～メタボリックシンドローム予防も踏まえたT H Pの推進～

講 師 三井化学(株)本社健康管理室長 産業医

土肥誠太郎

原子燃料工業(株)熊取事業所 業務管理部総務グループ安全衛生担当課長

坂上 義満

三菱電機健康保険組合事務局次長

大森 義文

大阪ガス(株)人事部健康開発センターマネジャー

山地 繁信

助言者 厚生労働省労働基準局安全衛生部労働衛生課長

司 会 富士ゼロックス(株)統括産業医 全社産業医

河野 慶三

17:00 終了

*引き続き、ロイトン札幌2F「クリスタル・ルームA」において「働く人の健康づくり全国交流会」を行います。お申込みは交流会のご案内をご覧ください。

メンタルヘルス分科会

会場 札幌市教育文化会館 大ホール 札幌市中央区北1条西13丁目
交通 地下鉄／東西線西11丁目駅から徒歩5分(会場への交通案内参照)

10月24日（金）のプログラム（9：30開場）

10：00

1 中小企業におけるメンタルヘルス対策の実際

(財) 広島県集団検診協会
業務部 主任

片山美恵子

約2年間にわたり、外部専門機関として関わってきた実績より、中小企業におけるメンタルヘルスの現状や取組み、課題などを分析、考察する。

10：20

2 人材育成がメンタルヘルスに与える影響

キューピー（株）伊丹工場
総務課 シニア産業カウンセラー

長瀬 伸子

光と影を生まない人材育成を行った結果、従業員のメンタルヘルスの向上が顕著にみられた。この取組みを産業カウンセラーの立場から報告する。

10：40

3 「復職クラブ（自助会）」の効果

豊田合成（株）
安全健康推進部健康管理室 保健師

祖父江まゆみ

(11：00～11：10休憩) 11：10

4 精神科医と連携したメンタルヘルス対策

キリンビール（株）取手工場
総務担当 保健師

佐久間しのぶ

11：30

5 メンタルヘルス支援体制の向上を目指して

東日本旅客鉄道（株）J R東日本健康推進センター
保健看護室 保健師

志野 恭子

(11：50～13：10昼休み) 13：10

メンタル不全による長期休業者のうち約20%が復職後6ヶ月以内に再発をしていた。そこで、2005年度より復職者自助会を導入。再発率は約8%まで低下した。

大学医局所属メンタルヘルス専任産業医と契約し、ストレス調査等の施策を継続実施して従業員健康管理に活用している当工場での取組み経緯と現状を紹介する。

メンタルヘルス対策は社員の身近にいる管理者の役割が重要との認識から、管理者への教育をはじめとする支援体制の取組み方法の検討を行った。

シンポジウム

職場のメンタルヘルス対策における産業保健スタッフの活動の充実を目指して

講師 松下電器健康保険組合 松下産業衛生科学センター所長
三菱化学㈱人事部健康支援センター マネージャー
N T T東日本首都圏健康管理センタ 保健支援科看護部長
助言者 安西法律事務所所長
司会 北海道産業保健推進センター所長

山田 誠二
武田 繁夫
畑中 純子
安西 愈
三宅 浩次

14：40 終了